

# 麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 教授

氏名 上家潤一

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

## 1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

学生に必要な知識を伝えることに責任がある。知識の伝達には学生の理解が必須であり、そのために学生が自律的に勉強するように、当該分野に興味を持たせる授業を心がけている。病理学関連の授業では、実際の症例を提示し、自身の診断に至る思考過程を説明している。演習、実験では、実験の意義を理解し、学生が自分で研究計画を組み立てるよう指導している。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
獣医病理学総論	獣医学科	必修	3	145
獣医病理学各論I	獣医学科	必修	3	147
獣医病理学各論II	獣医学科	必修	4	138
卒業論文	獣医学科	必修	6	2
獣医学概論	獣医学科	必修	1	137
専門ゼミ	動物応用科学科	必修	3	6
獣医学特論I	獣医学科	必修	5	15
獣医学特論II	獣医学科	必修	6	1
獣医病理学特論	獣医学専攻	選択	1	1
獣医病理学特別演習I	獣医学専攻	選択	1	2
獣医病理学特別演習II	獣医学専攻	選択	2	5
獣医病理学特別演習III	獣医学専攻	選択	3	5
獣医病理学特別実験I	獣医学専攻	選択	1	2
獣医病理学特別実験II	獣医学専攻	選択	1	1
獣医病理学特別実験II	獣医学専攻	選択	2	1
獣医病理学特別実験III	獣医学専攻	選択	1	1
獣医病理学特別実験III	獣医学専攻	選択	2	1

## 2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

本学の基盤理念である学理討究はすなわち連続した課題解決であり、自ら課題を設定し、その解決手段を探ることが求められる。大学教育においては学生の自律的な学習が重要である。現在の多くの学生は与えられた課題を既定のルールで解決する受験勉強の延長線上におり、高学年においても自分で課題の設定ができない学生がいる。自身で課題探索と目標設定、解決策の計画ができる学生を育てたい。そのためには、現在の科学技術の限界を理解することの必要性を学生に伝達しなければならない。教員は関連分野の歴史をすると同時に、常に最先端の獣医医療実施者もしくは研究者である必要がある。本学設立の真の理念を理解し、発展的に学生に伝えたい。

### 3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

正しい知識に基づいて考え、判断する能力を育成したい。病理診断は症例の特徴をとらえ、疾患に分類していく。テキスト内容を画像に置き換えて理解し、症例に応用することが求められる。実症例を経験させることが最適であるが、150名が対象では現実的ではない。そこで、授業では、自験例の写真を紹介しながら、診断に至る思考過程とその根拠画像を解説し、疑似的に病理診断を体験させている。画像の解説では、写真にイラストツールで印をつけて解説し、ライブ感を心がけた。コアカリキュラムで設定される基礎知識の定着のために、毎回10問の選択式の小テストをオンラインで配布した。

#### (1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

獣医学概論でグループワークとして症例報告を実施している。病理学実習では豚および鶏の解剖実習を実施し、肉眼所見と組織所見を報告させている。

#### (2) ICTの教育活用

有

病理学実習で解剖動画の配信、バーチャルスライドを使用した標本観察を実施している。

### 4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

#### (1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

配布資料は図を基本に作成し、講義を聞いて学生自身が書き込むことで完成するようにしている。病理の講義内では直近で経験した自験症例を紹介し、興味を持たせるようにしている。

#### (2) 学生の理解度の把握

A

毎回の授業後にgoogle formsで小テストを実施して回答状況を把握している。

**(3) 学生の自学自習を促す工夫**

A

小テストに回答回数に制限を設けず自習に活用してもらっている。

**(4) 学生とのコミュニケーション**

A

基本的に質問はメールで受け付けている。

**(5) 双方向授業への工夫**

B

病理学実習では学生の解剖をサポートし、都度質問をしながら理解を深めている。

**(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）**

A

国家試験問題を授業内で紹介している。頻出する疾患についてはその旨を解説している。

## 5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

**(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映**

小テストや講義動画の提示が遅いとの指摘があり、改善した。

**(2) (1) の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題**

提示のタイミングを改善した。

### (3) (2) を踏まえた次年度の取組

講義の1週間前に講義資料を掲載し、小テストは講義直後に提示する。

## 6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

### (1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

病理学総論・各論では小テストを繰り返し解くことで理解を深めている。授業内で症例紹介をすることで病理、特に組織診断に対する興味を持たせる。

### (2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

本年度3年次において、前期の病理総論に比べ、後期の病理学各論Iの定期試験の平均点数が大きく上昇した。

## 7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

主に動画視聴にて参加している。

## 8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

ドリル形式の課題を中心にして自主学習を推進してきたが、試験対策の暗記が主体となってしまう。実際の症例の病理所見をとり、診断に至るための考える力を養うために、講義中に記述試験を取り入れる。

## 9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

特になし。